

大腸内視鏡検査の説明・同意書

1. 検査の方法

大腸内視鏡検査(大腸カメラ)は大腸にできる病気(ポリープ・癌・炎症)を発見、適切な治療方法を選択し、切除や組織検査などの処置を行います。

内視鏡をお尻から挿入し、大腸の中に空気を入れて膨らませながら観察します。

検査は概ね30分程度で終了しますが、病変が見つかったり、ポリープを切除する際にはもう少し時間がかかる場合があります。

大腸の動きを抑えるための鎮痙薬と鎮静剤を使用して苦痛のない状態で検査を受けていただきます。ただし持病によってはこれらの薬を使用できない場合があります。また脳梗塞や心疾患などのため血液をさらさらにする薬(抗凝固薬・抗血小板薬)を服用している場合は、ポリープ切除できないこともありますので事前に医師と相談した上で検査を行います。

観察中、病変が見つかった場合必要に応じて以下の処置を行うことがあります。

- 1) 組織の一部を採取し細胞の検査を行います。
- 2) 人体に安全な色素を散布して病変を明瞭にし診断の参考とします。
- 3) 日帰りで取れるポリープの場合はその場で切除します。
- 4) 出血が見られた場合は止血操作を行います。

2. 検査の危険性

検査は細心の注意を払い慎重に行いますが、内視鏡による危険性として次のようなことが報告されています。

- 1) 出血: 0.007%未満(約14,000人に1人未満)
- 2) 穿孔(腸に穴があくこと): 0.02%未満(約5,000人に1人未満)
- 3) ショック: 0.0009%未満(約110,000人に1人未満)

このような場合には止血処置・輸血・外科的手術あるいは蘇生などの緊急処置が必要になることがあります。検査全体での死亡率は0.0006%未満(約167,000人に1人未満)と報告されています。偶発症や緊急事態が生じた場合には責任持って対応致します。

3. その他

以上の通りですがわからない点がありましたら質問してください。そして十分にご理解頂けたら以下の同意書にご署名をお願いします。

以上のことにつき説明書を読み、理解しました。
大腸内視鏡検査を希望します。

年 月 日

氏名

代筆者(続柄)

浜松市西区入野町9863-6
鈴木内科消化器科医院
院長 鈴木 秀治

鎮静剤(静脈麻酔)の説明・同意書

1. 鎮静剤(静脈麻酔)とは

精神的・身体的な苦痛・緊張を和らげる薬剤です。検査室に入ってから血管確保した上で薬剤を注射します。

不安が強い方や検査が怖い方など希望のある患者さんに投与します。

年齢や体重により投与量は調節し安全な量で投与します、効果には個人差があり全く記憶に残らない方もいれば、検査中全ての処置を記憶されている方もいらっしゃいます。

(飲酒量の多い方や、普段睡眠薬や抗精神薬を服用されている方は効果が減弱する傾向があるようです。)

2. 副作用

ごく稀に、一過性の呼吸抑制が起きたり、薬剤によるアレルギー反応や頭痛・嘔気が起こったりすることがあります。検査中そのようなことが起こった場合でもすぐに対応できるように、体にモニターをつけ常に全身状態を確認しながら行っています。

3. 注意事項

検査終了後は30～60分程度ベッド上にてお休み頂きます。
検査後は自動車・オートバイの運転は避けて頂いております。

以上のことにつき説明書を読み、理解しました。
鎮静剤を希望します。

年 月 日

氏名

代筆者(続柄)

浜松市西区入野町9863-6
鈴木内科消化器科医院
院長 鈴木 秀治